

## 令和元年度 災害時多言語情報センター運営訓練及び事前会議 開催報告

(公財) 埼玉県国際交流協会では、災害時に県の要請により「災害時多言語情報センター」を設置・運営することになっている。

大規模災害時に災害知識の不足や限られた日本語力のため、弱者となりやすい外国人住民を支援するには、日ごろからの準備と訓練が重要となることから、大規模災害を想定して必要な情報伝達の仕組みの確立と支援を担う人材を養成することを目的とした訓練を実施した。

### 1 事前会議

災害時多言語情報センター運営訓練に先立ち、訓練の実施方法を説明すると共に識者による講演を行った。

実施日時	令和2年2月25日(火) 13:30~15:30
会場	浦和合同庁舎5階 第5会議室
参加者	市町村担当者 20人 NGO 団体関係者 1人 協会通訳・翻訳ボランティア 6人
内容	・「災害時多言語情報センター」について ・講演 「外国人が被災後に直面すること ～3つの水害対応の経験から～」 講師 NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会理事 柴垣 禎 氏 ・運営、翻訳等シミュレーション訓練の実施について

#### [講演概要]

昨年10月の台風19号により、県内でも河川の増水による越水や氾濫が起きたことから、水害の対応策を軸に広く災害対応についてお話しいただいた。

「地域防災計画」では、高齢者、妊婦、障がい者、外国人が要援護者、要支援者となっているが、過去の災害で外国人被災者数の正確な統計はない。外国人には日本で起きる災害の知識がないことが多い。幼いころから学校の避難訓練等で災害について学んでいる日本人と外国人ではスタートラインが異なっている。人は重層的なバックボーンを持っており、当たり前なことは意

災害時、外国人の3つのわからない  
今! 何が起きたかわからない  
次に どうしたらいいのかわからない  
そして 元の生活に戻る方法がわからない

識していない。地震が起こるのが当たり前と思っているのは日本人だけで、世界ではむしろ少数派である。「避難所」という概念もなく、日本人ばかりの避難所では、外国人が入ってよいかもわからず、過去の災害では、指定避難所以外で過ごす外国人が多数出たケースがあった。避難所にひと固まり外国人がいたら、日本人は何となく不安になる。外国人にとっても、そこにいてよいのか不安になる。そこで、外国語で「避難所」の表示があれば、外国人が入ってもよいというしるしになるうえ、日本人には“外国人も来るのだ”と知らせることにもなる。

災害情報は、事前に提供しておかないと必要な時に届かない。基本は、「災害情報+予測情報」、外国人の状況を予想して必要な情報を提供すること。そのため、情報の伝達ルートを確認し、日ごろから外国人コミュニティとつながりを持っておくことが大事。

「災害時多言語情報センター」は被災した外国人に「安心を届けるため」にやっている。翻訳作業に没頭しては本末転倒。外国人だから、「翻訳して終わり」ではない。普段から、できること、できないことを考え、できないことを意識し、できないことは誰にやってもらえるのかも考えておく。一市民として、自分が被災者と考えたと何をすべきかわかるのではないか。

外国人に伝えるために  
言葉を変えてみる 翻訳・通訳・やさしい日本語  
言葉を使わない イラスト、ピクトグラム  
モノを使う 携帯の翻訳アプリ、電子辞書、  
指さしカード

## 2 災害時多言語情報センター運営訓練

実際の災害を想定し、メールと地上系防災行政無線を利用し、机上訓練を行った。

実施日時 令和2年3月11日(水) 10:00~17:00

参加者 市町村担当者 33人

市町村国際交流協会担当者 3人

協会通訳・翻訳ボランティア 44人

語学別内訳(延べ人数)  
英語 33人  
中国語 4人  
スペイン語 7人  
ポルトガル語 2人  
ネパール語 1人

埼玉県国際課 1名

埼玉県国際交流協会 1名

## 内 容

時間	内容
10:02	県国際課から「災害時多言語情報センター」設置要請が地上系防災行政無線で届く
10:08	訓練開始を市町担当者、市協会担当者、翻訳ボランティアにメールで伝達
10:15	FAX で訓練参加の市町宛て、地上系防災無線で訓練開始を伝達
10:39	市町担当者から最初の被災状況報告書と翻訳依頼がメールで届く (以降、訓練受付締め切りの12時までに各市町より報告あり)
12:09	災害時多言語情報センターから翻訳ボランティアへ依頼を開始
12:41	翻訳ボランティアから最初の翻訳文書が届く(以降、翌日まで続く)
14:00	災害時多言語情報センターから翻訳依頼のあった市町へ、翻訳文書の返送を開始(20時37分終了)
16:52	訓練終了を、市町担当者、市国際交流協会へ伝達
17:05	訓練終了を、翻訳ボランティアへ伝達

### [課題と問題点(気がついたこと)]

- ・事務局の説明不足により翻訳依頼票(様式2)を送ってくださった市町及び協会が少なかった。
- ・翻訳依頼票に関し、こちらから1件でも災害対策本部情報として、翻訳フォーム(様式3)で翻訳を依頼しない市町にも多言語情報を発信できるとよかった。
- ・FAXで翻訳依頼の原稿が届くと本文をすべて手入力するための人手が必要となる
- ・翻訳ボランティアに訳を依頼する際に、誰にどの自治体の翻訳を依頼したか、一覧表にまとめておくと対応しやすい
- ・誤訳のチェックをどのように行うか(今回の訓練ではチェックなし)
- ・翻訳ボランティアがスマートフォンでも対応いただけるよう、今回はメール本文にベタ打ちで戻してもらおうようお願いした。どのような形で返送いただくのがベストか再度検討したい。
- ・今回、中国語の翻訳依頼に簡体字で対応してしまったが、繁体字は必要なかったのか